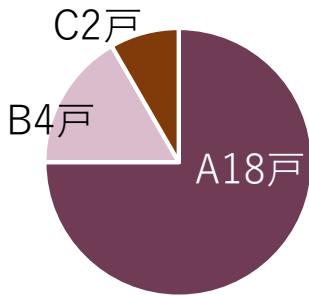
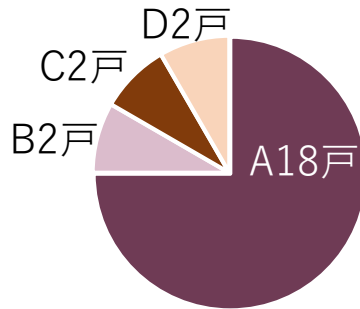


酪農生産性向上対策事業 第2回バルク乳検査結果

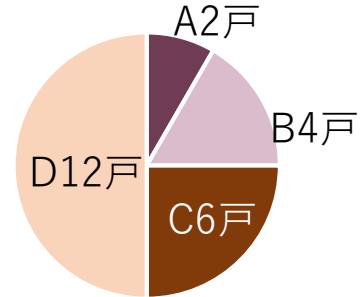
生菌数



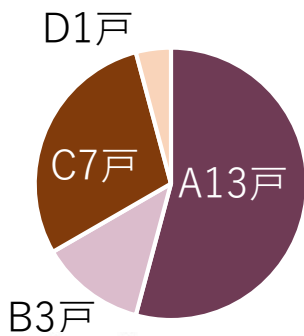
黄色ブドウ球菌



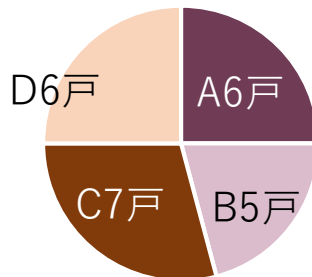
環境性ブドウ球菌



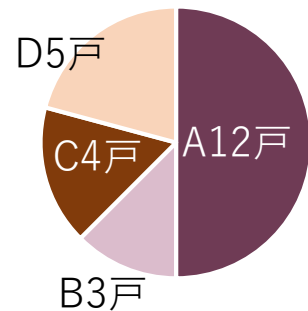
環境性レンサ球菌



大腸菌群



耐熱性菌



判定基準 A：正常/目標 B：やや多い C：多い D：非常に多い (管内農場24戸)

無乳性レンサ球菌、マイコプラズマ、牛ウイルス性下痢ウイルスは全戸陰性でした。 個体乳検査、搾乳衛生・管理について、お気軽にご相談ください。

大腸菌性乳房炎とは

- ・今回の検査では、第1回(R6.6月)より、大腸菌群のC.D判定が多く認められました。
- ・大腸菌性乳房炎は、7～10月の発生が多いと言われ、急激な気温の変化や、暑熱ストレスを受けた牛の免疫力の低下により発症しやすい時期となります。
- ・牛床、牛舎内を清潔・乾燥した状態を保ち、ストレスの少ない快適な環境を作ってあげることが、予防につながります。
- ・おが粉 1 m³(約200～250kg)に消石灰10kgを混合で、3日間殺菌効果が持続します。

